

ロシア映画を研究する会 キノエ克蘭8月例会

妖婆・死棺の呪い



ロシアの文豪 ゴーゴリ原作の恐怖映画

1967年、78分、ソ連、総監督：アレクサンドル・プトゥシコ、監督：ゲオルギー・クロパチュエフ、コンスタンチン・エルショフ、原作 ニコライ・ゴーゴリ、撮影 フェードル・プロボーロフ、ビクトル・ビシヤリニコフ、音楽 カレン・ハチャトリアン、出演 レオニード・クラヴレフ、ナタリーア・ヴァルレイほか

文豪ゴーゴリの短編『ヴィー』を基に、一人の神学者と若い娘の死体に取り付こうとしている妖怪たちとの戦いを描いた怪奇幻想譚。全編に渡る原始的だが効果的なSF Xが観る者のド肝を抜く、ソ連製の娯楽ファンタジー作品。ソ連初の長編映画『石の花』で名高いアレクサンドル・プトゥシコ監督が総監督として参加、その手堅くも手作り感覚溢れる特撮は正に魔法といった様相。

作品上映後：

日本ユーラシア協会 宮城県連合会事務局長 移川仁さんの解説あり

8/7(日) 14:00~

**仙台国際センター
1階研修室**

参加費 500円 (資料代金)

仙台市青葉区青葉山 TEL022-265-2211

主催：日本ユーラシア協会宮城県連合会

共催：右岸の羊座 問合せ 070-5326-1974 大越まで



第四金曜日は映画の日

上映会 8/26(金)

ソビエト雪どけ時代の代表作
グレゴリー・チュフライ監督特集

10:30

「女狙撃兵マリユートカ」



1956年、93分、赤軍の女狙撃兵マリユートカは41番目の敵を射止めた。敵は白軍の中尉で負傷した後、捕虜になる。マリユートカは中尉を船で護送することになるが、船は難破し孤島に辿り着く。日々をともに過ごしていく中で敵同士の二人の間に愛情が芽生え始める。叙情的映像と瑞々しいストーリー展開は、それまでのソビエト映画には見られない、フルシチョフ政権時代「雪どけ」の到来を告げる代表作となる。1957年カンヌ国際映画祭審査委員賞受賞作。

13:00

「誓いの休暇」



1959年、87分、一兵卒の帰郷を軸に反戦を謳い上げたストーリー。19歳の兵士アリョーシャは思いがけない戦功から英雄と呼ばれ、6日間の帰郷の休暇をもらう。ところが親切心から列車に乗り遅れたり、母親の元に辿り着いた時には、帰路の途に就かなくてはならなくなっていた。1960年カンヌ国際映画祭最優秀特別賞はじめ多くの受賞に輝いたヒューマニズムあふれる名作。

参加費

1作品につき 800円

「映画村会員」

「シニアネット会員」の方 500円

会場：NPO法人 シニアネット仙台

「一番町サロン」

TEL 022-266 - 5650

仙台市青葉区一番町2-5-12

一番町中央ビル8F

地下鉄東西線「青葉通一番町駅下車」南出口1分

ドトールコーヒー仙台サンモール店 向いビル

10/28(金) のサロン・ド・キネマもロシア映画特集・雪どけ時代の名作「鶴は翔んでゆく」「人間の運命」を予定しています。

